

玉垂

たまだれ
No.11



浅野温子語り舞台「日本神話への誘い」(平成16年5月27日・拜殿)

<http://www.okunijinja.jp/>

浅野温子 語り舞台 『日本神話への誘い』を終えて

今や世界はもとより、日本の社会においても豊富な物質と快適な暮らしを手に入れ着実に発展し、なお繁栄し続けている文明社会にあって、精神面は乏しくなり自然との調和も崩れ、様々な問題が生じているのが状況です。

時代とともに良かれ悪しかれ流行は次々に生まれ常に変化する中、多くの人々は今現在を、また未来をよりよく過ごせるよう先を見据えて弛まぬ努力を続けています。将来を見据えることは、必要ですし素晴らしいことと思います。しかしながら、目先に捕らわれ確かな目標がないものは、視野も狭く行き先を見失い、修正がきかず対処に困惑するばかりです。ただ漠然と先を見てばかりではなく、この国の原点・歴史を振り返り、時代の流行は変わるとも、その根底に変わらずつ通じているものがあることに気づくことも大事なのではないでしょうか。

日本人のものの考え方、感じ方、心の奥底にある精神を表現し、純粹に読み取れるものが、日本最古の古典とも言える『古事記』だと思っています。古事記は、所謂神話で神様のお話ですが、人間味あふれる身近なものであり、日本人の心、姿が偽りなく表現されており、その根本は連綿と語り継がれることにより現代にも通ずるものがあります。しかしながら現代社会では、神話の精神が反映されることもなく、時代の変化とともに語り継がれることが少ないと思われまます。

このような現状を憂いつつ女優・浅野温子さんが、もとよりお考えであった神話の語り舞台を伊勢神宮を皮切りに全国の神社での展開を始められました。静岡県では、三嶋大社・静岡浅間神社、そして小國神社での公演となり、当社では五月二十七日(木)午後六時十五分より拜殿内の舞台となりました。

内容は、古事記より「須佐之男と大国主神」と「大国主神とスセリ姫」の二話で構成され、共に当社の御祭神にまつわるお話でした。当日は、天候にも恵まれ夕暮れから移る時間帯、ライトアップされた御本殿と木々に囲まれ幻想的な空間の中、予め応募いただいた三五〇名の方たちに観賞していただき、それぞれがこの舞台のシナリオや演出、もちろん浅野さんの熱のこもった語りにより、まさに神話の世界へ誘われ、時間の流れを忘れるほどの素晴らしい舞台となりました。公演中は、感動のあまり涙を流す方もあったようです。中には、「もっと多くの若い人達にこの舞台を観せてあげたい」、「古事記を聞かせてあげたいと思った」など感想も色々でした。



とらえ方は様々あるでしょうが、本筋を間違わなければいかに理解し、いかに表現するかは自由です。伝える側、教わる側がそれぞれ感じる古事記でよいと思います。大切なのは、いつまでも語られ、受け継がれていくことであり、すなわち「不易流行」の精神です。それにより、次世代への指針と活力を与えることが出来るのではないのでしょうか。

そうした意味も含めまして、浅野さんを始めスタッフの皆様の今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

(写真提供 オフィス・ジゴロ)



例祭の齋行

四月十八日午前十時、例祭が齋行されました。本年は、三年振りに晴天に恵まれ穏やかな一日となり、静岡県神社庁副庁長櫻井豊彦様をはじめ多勢の皆様のご参列を賜りました。

同日、午後二時には例祭に伴い神幸祭を執り行いました。御本殿にて祝詞奏上後、ご神霊を神輿にお遷しする御霊遷しの儀を行い、お先面(猿田彦大神)役の先導のもと神輿渡御が行われました。行列は神幸所(お旅所)に向かい、神幸所祭が齋行されました。その後、最初の行列に舞楽人一同を加え一の鳥居まで巡行し、ここで、勅使行列とも合流し還幸へと移ります。

勅使行列とは、大宝元年(七〇一)の勅使参向を復元したもので、本年の勅使役は山本充喜様がご奉仕下さいました。また、一宮全地区の小供みこし(樽みこし)が参加し、子供達の元気な声で賑わう中無事に参向し、神幸祭は滞りなく齋行されました。



お先面役

十二段舞楽奉仕者御芳名

(敬称略)



舞楽奉仕者一同

指前役・楽頭	白幡 富幸	色香	乗松 邦明
副指前役	大場 篤		鈴木 嘉久
行事	大場喜久司		井口 智博
	天野智加志	安摩	朝比奈 斉
師匠	小澤 広一	二の舞	狩野 高士
	北嶋 恵介		嶋田 秀邦
	大場 詞信		鈴木 邦男
師匠見習	内藤 明廣		鈴木 昌人
衣装方	高木 誠		山下 昌彦
	小林 隆	陵王	野口 雅人
	大塚 静雄	納蘇利	鶴見 俊之
稚児	山下 大貴		水野 郁男
	鈴木 雄大		大場 学
	鶴見 横也	獅子	白幡磨佐彦
大金衆	村松 俊哉		鶴見 和弘
	大場 竜士		鈴木 清次
	大場 佳毅		平田 章浩
	大場 勇輝		岩瀬 公紀
	鶴見 祐介		塩沢 佳夫
			小澤 賢市

太平楽・稚児舞・巫女舞

奉仕者御芳名 (敬称略)



太平楽

大場 竜士・大塚 佳毅
大場 勇輝・鶴見 祐介



稚児舞

山下 大貴・鈴木 雄大
鶴見 横也・村松 俊哉



巫女舞

山下 奈々・市川 はるか
高木 真実・三浦 佑里恵

稚児行列奉仕者御芳名

(敬称略、順不同)



倉見 彩香
水谷 百翔
水谷 百恵
森町 一宮
袋井市
袋井市
袋井市



勅使行列

静岡県氏子青年協議会

「家族会」の開催

静岡県氏子青年協議会の「家族会」が、去る五月三十日(日)午前十時三十分より小國神社の境内にて開催されました。本年は当社氏子青年会が当番となり、当会より二十一家族四十二名が参加、総勢で五十九家族一五三名が参加しました。正式参拝を受けた後、花しょうぶの観賞やフィールドアスレチックなどで楽しみました。大宝殿下の駐車場で昼食のバーベキューをとり、宮川でのヤマメのつかみ取りなどが行われ、子供達は手にしたヤマメを自慢そうにお父さん、お母さんに見せるなど様々に楽しみました。途中雨に降られるなどの一幕もありましたが天候もどうにかもち、「楽しい一日でした」と皆様から御礼の言葉を頂きました。



家族会「ヤマメのつかみ取り」

桜まつり・花菖蒲まつりの実施

当社では、春は「桜まつり」、初夏に「花菖蒲まつり」また秋には「もみじまつり」と時節に合わせて開催をしています。

本年は、春より花木類の開花が早く、桜・花菖蒲ともに例年より一週間ほど早く見頃を迎えました。

四月のさくらまつりでは、毎年琴の奉納演奏をしていただいております「むらさき会 主宰・望月よしの先生と宮城流で同門の長尾早苗先生が特別演奏され、華をそえていただきました。

また、六月の花菖蒲まつりは、朝から生憎の雨となり、手水舎付近と事待池端にて予定されていた野点は、大宝殿での接待となりました。また、舞殿においては琴と尺八の奉納演奏、休憩所前では盆栽の展示・即売が行われました。

悪天候にもかかわらず、最盛期を迎



長尾 早苗先生の奉納演奏 (前列)

えた花菖蒲を観賞に來られた方たちで園内は賑わい、天候の落ち着いた午後からはご参拝の方たちも増え、演奏に拍手を贈られる方や盆栽を手にしていく方も見られました。また、屋内での茶席も、多くの方にお点前を楽しんでいただきました。



お茶席 (雨天につき大宝殿にて実施)



一宮花菖蒲園

夏越の大祓式齋行

毎年六月と十二月の晦日に大祓式が全国の神社で執り行われます。六月は夏越(水無月)の大祓、十二月は師走(年越)の大祓といわれています。大祓とは、私達が日常生活の中で知らず知らずのうちに犯してしまう罪や穢れなどを祓い、明るく清い心に立ち返る神事です。当社の夏越の大祓式が去る六月三十日午後三時より齋行されました。罪や穢れを移した人形を前に、二百余名の参列者が切麻にて身心を清めた後、拜殿前の参道に設けられた茅の輪をくぐり疫病除を願いました。この茅の輪は、氏子の方よりわけて戴いた茅萱で作製いたしました。十二月には師走の大祓式を齋行いたしますので、是非ご参列下さい。



夏越の大祓式 (茅の輪神事)

まつり歳時記

七月〜十月

七月

文月 ふみづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 三十一日 境内地讓渡記念祭 (午前八時)
- 三十二日 愛宕神社例祭 (午前九時)

八月

葉月 はづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十三日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

九月

長月 ながつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭選擇式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前十時)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時)

十月

神無月 かんなづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 九日 白鬚神社例祭 (午後二時)
- 十二日 甲子祭 (午前九時)
- 十七日 神嘗祭当日祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前十時)
- 十八日 福神像頒布式 (午前十時)



彼岸花とヤブラン



玉すだれ

モリアオガエルの産卵

カエル目アオガエル科

モリアオガエルは森林の樹上等に生息し、眼の虹彩はオレンジ色で、四肢の指には発達した吸盤をもつ体調五〜九cmの中型のカエルです。繁殖期は四〜七月で、池や沼の周辺の樹木の枝先に、白い泡状の卵塊（卵のかたまり）を産み付けます。10cm程の楕円形の卵塊の中には三百〜八百個の卵が入っており、一〜二週間でおタマジヤクシに成長し、水中へと落下します。その生態の珍しさもあり、岩手県の大揚沼や福島県の平伏沼が繁殖地として国の天然記念物に指定されています。産卵場所や幼生の生活場所となる水環境と変態後の生活場所となる森林が共に守られている必要があります。当社では六月頃、宮奥の小池の周りの紅葉に何個もの卵塊をみる事ができます。



卵塊



モリアオガエル

古代の森シリーズ ⑪

滝宮社

滝宮社は須佐之男命と瀬織津比咩神をお祀りする境内末社の一社で、慶長五年（一六〇〇年）の絵図に記されている往古よりの一社であります。拝殿前広場より宮川のみみじ橋を渡り、林道を北に数メートル進むと右側に登山口があります。登るにしたがい、右眼下を見下ろすと高さ七メートル程の滝が流れています。お社は山中の中腹に鎮まり、滝の上に位置します。例祭は十二月十八日の月次祭齋行後、引続き齋行されます。

御祭神の二神は、水に関係する御神徳があります。須佐之男命は神話「八岐大蛇」で知られているように治水の神であり、瀬織津比咩神は祓戸大神の一神として、不浄なものを清浄にするお祓いの神であります。清流宮川の治水を守り、水の力により不浄なものがあれば祓い清めるといった神霊の働きをもたらししています。滝は大きな水の力の象徴であり、「師走の大祓式」と同月に齋行されるところに意義があります。



滝宮社



「秋の写真コンテスト」開催



本年も秋をテーマにした写真コンテストを開催します。応募作品は、本年の紅葉・もみじまつりの風景全般になります。紅葉狩りや七五三詣りなどのスナップ写真も対象になり

ますのでお気軽にご応募下さい。応募作品は四つ切・ワイド四つ切で裏面に指定の応募票を必ず貼付して写真コンテスト係までお送り下さい。ご応募をお待ちしております。



平成15年 入選 <朝光の中・加藤徳治氏>

最優秀賞 (1名)	賞金・賞状・富士フィルム賞 静岡新聞社静岡放送賞
優秀賞 (2名)	小國神社宮司賞・賞金・賞状 富士フィルム賞
特別賞 (1名)	賞金・賞状・富士フィルム賞 中日新聞東海本社賞
入選 (10名)	賞状・副賞(一品) 富士フィルム賞

締切	12月25日必着
審査	写真コンテスト実行委員会 富士写真フィルム(株)
発表	平成17年2月中旬
※詳しくは、写真コンテスト係までお問い合わせ下さい。	

命 名

平成十六年一月一日
～平成十六年五月三十一日

萩原 悠介	神谷 美結	山内 万由	中村 美月	伊藤 翼	鈴木 優希	甚沢 歩輝	鈴木 美咲	山本 紗理	柴山 まりん	大野 誠心	片桐 雅貴	鈴木 堅斗	水谷 真沙希	水谷 紗弥	水谷 奈桜	八木 斗麻	齋藤 光	河合 浩志	
森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市
杉本 菜緒	溝口 朝日	堀田 楓馬	山下 澪那	加藤 孝輝	大場 孝輝	山本 康生	鈴木 拓真	岩本 萌花	阿部 陽斗	渡辺 晴翔	増田 凌空	小澤 茉莉花	近藤 涼太	岩崎 晴香	山下 真由	篠崎 美玖	鈴木 瑠唯	神田 知希	
森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

高木 康佑	松島 侑聖	柴田 凌太郎	相羽 啓佑	富井 柊太	松下 愛美	松原 日菜乃	栗原 菜乃	馬淵 奈緒美	佐藤 琉偉	狩野 友蓮	田村 萌	加藤 龍聖	竹下 空奈	竹下 宗	前島 陽人	増田 真実菜	夏目 裕斗	早野 司紗	荒木 良太	青木 翼	芝本 早菜
森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市	森 浜松市

新職員抱負



巫女 木村 貴美

入社いたしましたして、早や数ヶ月が経ちました。アルバイトでは数年間ご奉仕させていただけに、お礼の気持ちで、伝統ある小國神社に奉職することができ、心より感謝しております。アルバイトでのご奉仕とは違い、入社してからは初めてのことも多くあり、先輩の方々に迷惑をかけております。少しでも早く先輩方に近づけるように、日々努力していきたいと、参拝者の方をはじめ多くの方に感謝の気持ちを持っていきたく、ご奉仕させていただきます。

「小國の杜・点描」

駒繫 (こまつなぎ)

マメ科コマツナギ属 落葉小低木
 高さ三十〜百cmになり、株の基部より多くの枝を出します。六月中旬より長さ3cmほどの萩に似た花をつけます。莖や根が丈夫なことから馬の手綱をつないだとも、または馬の好物であり馬を立ち止まらせたともいわれ、ウマツナギ・コマトドメとの別称もあります。

藪手鞠 (やぶでまり)

スライカズラ科ガマズミ属 落葉低木
 山野の谷や川沿いに多く生え、高さ二〜六mになります。花が美しいため庭木



駒繫 (こまつなぎ)



藪手鞠 (やぶでまり)

として植えられることもあり、五月中旬頃、ガクアジサイに似た白色の花を密につけます。果実は初め赤く、のちに黒く熟します。漢名は胡蝶戯珠花。事待池のほとりで見ることが出来ます。

金糸梅 (きんしばい)

オトギリソウ科オトギリソウ属

半落葉小低木

古くから庭木や公園樹として植えられ、よく枝分かれし、高さ約1mになります。六月〜七月、梅に似た径3cmほどの黄色の五弁花をつけます。近隣種の未央柳は、花の径5cmほどで雄しべが花弁より長いことで区別できます。



金糸梅 (きんしばい)

海芋 (かいう)

サトイモ科 球根

湿地によく育ち、地下に芋状の塊(かたまり)のできることから海芋と呼ばれますが、最近では「カラー」といった方が親しまれた呼び名かもしれません。カラーとは「美しい」という意味のギリシア語が語源といわれます。乙女のしとやかさ・清浄という花言葉があり、ウエディングブーケ等に用いられます。



海芋 (かいう)

振興会からのお知らせ 1 研修旅行参加者の応募

当会では、隔年毎に研修旅行が行われています。今回は白山比咩神社参拝・北陸方面へと九月十六日〜十七日の二泊三日の日程で実施されます。境内末社の白山社が昨年改築され、本年春には白山比咩神社よりご分霊拝戴し、ゆかりも深い神社への参拝となりますので、是非この機会にご参加下さい。霊峰白山の御神氣にふれ、初秋の北陸路の旅を満喫いただきますようご案内申し上げます。尚、お申し込みは、会員のみで各地区理事さんを通してとなります。

◇募集人数 先着四十五名にて締切ります。
 ◇参加費 お一人二五,〇〇〇円

編集後記

○「玉垂」十一号をお届けします。今号には、浅野温子語り舞台「日本神話への誘い」の公演写真を多く取り入れました。写真による報告が主で恐縮ですが、アンケートの中心に「夢の様な至福の時でした。小一の息子に因幡の白兔を読んでもみようと思いました。」とあり感激いたしました。日本中の女性、特に母親が語り部になるということは、とてもすばらしいことではないでしょうか。

○富川の紅葉はよく知られるようになりましたが、皆様あまりご存じないのは「河鹿蛙」の鳴き声です。初夏の晴天の日には、こちよく聞こえてきます。因に雄の方は声が美しいといわれています。

表紙写真について

平成十六年五月二十七日(木)午後六時十五分、拜殿において公演された浅野温子語り舞台の状況です。神社の杜の中で最も御神前に近い場所にて、御祭神にまつわる神話の語りがおこなわれ、多くの皆様を魅了いたしました。

平成十六年七月十日
 「玉垂」(たまだれ) 第十一号
 題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七一〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
 FAX 〇五三八(八九) 七三六七
 印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー